

令和7年度札幌市子ども議会 各グループ意見概要

グループ①	ネットトラブル対策	子ども議員 8名 (小5:2名、小6:3名、中1:1名、中2:2名)
意見概要	<p>提案 小中高校でネットトラブルに関する授業の拡充（実施校の増加）および、札幌市主催のシミュレーション体験イベントの開催。</p> <p>提案の理由 18歳未満のネット被害が増加しており、子ども議員の身近でもLINEオープンチャット等での個人情報流出といった被害が発生しているため。</p> <p>提案の効果 シミュレーションを通じてネットの怖さを自分事として捉え、個人情報流出などの事故を未然に防ぐ知識が身につく。</p>	
<p>市長からの質問</p> <p>◎市長 ○子ども議員</p>	<p>◎ネットトラブルに関する授業を受けて、理解が深まったと感じましたか？ ○授業では座って聴いているだけで、やはり自分事化がしづらくて、知っているけど自分は関係ないとなってしまいます。</p> <p>◎具体的にどう対応すべきか考える機会がないということですね。身近で「こんなトラブルにあって、こんな風に困っている」と具体的な話を聞いたことがあれば、教えてください。 ○オンラインゲームのチャットで他のユーザー3人と口論になった友人が、一方的な通報により、利用停止（BAN）処分を受け、ゲームができなくなりました。</p> <div data-bbox="268 902 957 1365" style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>	

<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) 市民文化局 地域振興部 区政課</p> <p>教育委員会 学校教育部 児童生徒担当課</p>	<p>インターネットやSNSを使うことが当たり前になっている中で、子どもが安全に安心してインターネット等を利用するには、インターネット上に潜む犯罪のきっかけが、実は身近なところにあることを、一人ひとりが正しく知っておくことが大切だと考えています。</p> <p>そこで、札幌市では、学校や児童会館などの申込に応じ、テーマごとに犯罪の手口や対策について分かりやすくお伝えする「出前講座」などの活動をはじめ、様々な方法で注意を呼びかけています。</p> <p>さらに、学校では、日常的に1人1台端末を活用した学びを進めていく中で、情報モラルについて考えていく場面をつくったり、警察や専門家にも助言をもらいながら授業の動画や教材を作成しています。また、保護者の方にもご理解いただくために家庭でのルールづくり資料やコラムを作成して学校の実情に合わせて活用してもらっているところです。</p> <p>皆さんから意見のあった「自分事として捉えてもらう」という視点は、これまでの取組をより確かなものにするための大切なポイントだと受け止めています。</p> <p>今後、札幌市の地域防犯に関する取組や学校での取組などのあらゆる場面で、伝え方や内容を工夫しながら、分かりやすい情報発信を行っていきます。</p>
---	--

令和7年度札幌市子ども議会 各グループ意見概要

グループ②	地下鉄のルール・マナーを広めよう	子ども議員	5名 (小5:1名、小6:2名、中1:2名)
意見概要	<p>提案 「女性と子どもの安心車両」のルールを直感的に理解できるようポスターのレイアウト（文字サイズ等）を改善し、チ・カ・ホなどを活用して周知を強化する。</p> <p>提案の理由 現行のポスターはタイトルのわりにルールの詳細（時間帯、対象外で乗れる人等）の文字が小さく、一瞬見ただけでは理解できないという課題があるため。</p> <p>提案の効果 利用者が一瞬でルールを正しく理解できるようになり、男性客の誤乗車などを減らして誰もが安心して利用できる環境になる。</p>		
<p>市長からの質問</p> <p>◎市長 ○子ども議員</p>	<p>◎現状、文字が小さく、安心車両だと認識はできても、「誰が乗車できるのか」がわからないということはあると思います。ポスターの文字を大きくする以外に、色使いなどで工夫した点はありますか？ ○字体について気を付けました。現在のものは「女性と子どもの安心車両」という文字に縁取りがあるものの、全体としては少し角ばった印象だったので、少し丸みを持たせたフォントに変更するなどの工夫をしています。</p> <p>◎現在、地下鉄の乗車場所の近くに掲示していますが、より多くの人に認知してもらうためには、提案された場所以外で「こんな所が良いのでは」といった議論はありましたか？ ○パークアンドライド駐車場に掲示すれば、周知性は上がると思います。 ○その他、札幌市公式LINEアカウントから「女性と子どもの安心車両」に関する情報をわかりやすくまとめて発信することや、車両内に掲示されているポスターの形や大きさを見直すことなどです。</p> <p>◎色々な人に伝わらなければ意味がないという点で、工夫や意見が出たかと思えます。異なる意見がでたときに、みんなで議論し、一つの答えや方向性を導き出す上で、苦労した点はありますか？ ○このグループには鉄道好きな人とそうでない人が混ざっています。鉄道好きの人が勢いよく進めすぎると、そうでない人が置いていかれて、グループが崩壊してしまいます。そのため、子ども議会を通じて常に意識してきたのは、鉄道好きではない人が歯止めをかけたり、お互いの意見をできるだけわかり合おうとして、混ぜ合わせたり良いものにしようということです。</p> <div data-bbox="268 1138 436 1365"> </div> <div data-bbox="436 1187 972 1365"> </div> <div data-bbox="275 1377 430 1430"> <p>子ども議員が考えたポスターのイメージ</p> </div>		

<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) 交通局 高速電車部 業務課</p>	<p>「女性と子どもの安心車両」は、女性や小学生以下のお子様、体が不自由な方などが、地下鉄を安心して利用できるよう、周りの男性のみなさんのご理解とご協力をいただきながら進めている取り組みです。</p> <p>皆さんが提案してくれた「一目で『だれが』『いつ』使えるかがわかる工夫」は、とても大切な視点だと思いました。あわせて「なぜこの車両が必要なのか」という理由も分かりやすく伝えることで、みんなが自然に支え合えるような、温かい社会をつくっていききたいと考えています。</p> <p>今後、現在貼っているポスターをリニューアルする際には、皆さんからご提案いただいた「日本語は、丸みのある読みやすいフォントにする」、「日本語の説明文を短くして文字を大きくする」といったアイデアも、参考にしたいと考えています。</p> <p>また、言葉がわからなくてもパッと見て伝わるイラストを使うといった工夫も検討しながら、広く利用者に伝わる発信を考えていきます。</p> <p>鉄道が好きな人も、普段あまり乗らない人も、それぞれの視点から議論して答えを出してくれた今回の提案をヒントに、札幌市営地下鉄をもっと好きになってもらえるよう、札幌市公式LINEや交通局X（エックス）での発信、ポスターを貼る場所の工夫など、より多くの方に伝わるよう取り組んでいきます。</p>
--	--

令和7年度札幌市子ども議会 各グループ意見概要

グループ③	通学路の安心・安全	子ども議員 3名 (小5:2名、中2:1名)
意見概要	<p>提案 試験的に片側2車線道路の一部を自転車専用レーンとするなど、自転車の走行環境を整備し、あわせて矢羽根(路面表示)の意味の周知を行う。</p> <p>提案の理由 自転車は車道が原則だが、歩道走行する自転車が多く、またスピードも速く、歩行者として危険を感じる。また、自転車が車道を走行するとき、車と自転車の走行エリアが明確に分離されておらず、自転車側も車に対し危険を感じているため。</p> <p>提案の効果 歩行者・自転車・車の走行空間を分けることで、事故の危険が減り、子どもたちは安心・安全に通学できる。また、冬場は自転車レーンを堆雪スペースとして活用できる。</p>	
<p>市長からの質問</p> <p>◎市長 ◎子ども議員</p>	<p>◎学校の通学路付近について、自転車が歩行者と同じ歩道を走行している状況が危険だとみんなは感じて、自転車は車道を走るべきで、同時に自動車との関係も考慮し、明確にするようにという提案をいただき、ありがとうございます。街頭アンケートでは、矢羽根の認知度が低いということですが、学校で、矢羽根について教えてもらうことはあるでしょうか？ ◎学校では聞いたことがなく、スライドや原稿を作成する過程で初めて知ったという状況です。</p> <p>◎子どもの皆さんは学校の中で、自動車の運転者は教習所等で学ぶ必要があります。しかし、例えば、矢羽根のことを知っていても道路が狭いなどで、うまくいかないことがあります。また、自動車運転者の立場からは、「自転車は危険なので車道を走らない方が良い」という意見もあり、意見の相違が生じる可能性があります。異なる意見を持つ人たちに対して、皆さんはどのように説明して理解を得ることができるでしょうか？ ◎実験的に自転車専用レーンとして分けたら大丈夫だと思います。</p> <p>◎物理的に場所を分けられるのが理想的ですが、日本の道路は広いところばかりではありません。少し広めの2車線道路であれば可能かもしれませんが、物理的に分けられない場合の次の策として、矢羽根のような通行位置の明確化があります。本当は分けられれば一番いいんですけど、そのような課題についての提案だったと理解しました。</p>	



<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) 建設局 総務部 自転車対策担当課</p>	<p>片側2車線道路の一部を自転車専用レーンにすると、自転車は車道を通行しやすくなり、安全性の向上につながりますが、一方でバスの停車場の確保や荷物の積み下ろし場所が制限されるなど、様々な課題もあります。</p> <p>そのため、札幌市では、車道の左側に自転車の正しい通行位置と方向を知らせる『矢羽根型路面表示』の整備を進めており、整備にあたっては、安全に自転車が通行できる幅(路肩)を確保するため「車道の幅員構成の見直し」や「車線数の見直し」を行うなど、歩行者や自転車及び自動車の安全な通行環境の実現を図っています。</p> <p>また、子ども議員が実施した街頭アンケートによると、矢羽根型路面表示の認知度が低いという結果であったことから、認知度向上を図るため、地域や高校などとも連携して、整備路線周辺での啓発活動のほか、様々な場面で周知に努めています。</p> <p>(補足情報) 【自転車通行位置の明確化】 https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/dokan/jitensha/tsukoichi.html</p>
<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) 市民文化局 地域振興部 交通安全担当課</p>	<p>自転車は原則、車道左側を走行する乗り物ですが、歩道に標識があるときや13歳未満の子など、例外として歩道を走行できる場合が法律で定められています。</p> <p>小学生のみなさんはこの例外規定により自転車で歩道を走行できますが、歩道は歩行者が優先です。自転車で歩道を走行する場合は、すぐに止まれるスピードとし、歩行者の通行を妨げるような場合は一時停止しなければなりません。また、歩行者がいる場合など歩道が混雑しているときは自転車を降りて、押して歩きましょう。</p> <p>小学校の交通安全教室では限られた時間の中であることや年齢に応じた内容とする必要があるなどの理由から、「道路を渡るときは横断歩道をわたしましょう」「信号を守りましょう」「車が来ていないかよく見ましょう」など重点を絞って伝えています。</p> <p>札幌市では、自転車の正しいルールをホームページに掲載したり、詳しく解説する小冊子「セーフティ自転車ライダーのスズメ」を作成し、市内の中高生に配布するなど、ルールやマナーの周知に努めています。また、大人や高校生向けに実施する交通安全教室などでは、小学校の交通安全教室では伝えきれない項目などをより詳しく解説しています。</p> <p>道路上の指導や取締りは警察の管轄ですが、札幌市は北海道警察と連携して円滑な道路環境の維持に努めており、自転車の安全利用を呼びかけています。</p> <p>(補足情報) 【札幌市ホームページ/自転車のルール・マナーについて】 https://www.city.sapporo.jp/kotsuanzen/cycle/cycle.html 【警察庁ホームページ/自転車の交通ルール】 https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/portal/rule.html</p>

令和7年度札幌市子ども議会 各グループ意見概要

グループ④	増やそう！ユニバーサル遊具	子ども議員	4名 (小4:2名、小5:1名、小6:1名)
意見概要	<p>提案 車椅子からでも乗りやすい回転遊具や幅の広い滑り台などを備えた「ユニバーサルデザイン遊具」のある公園を各区に2〜3か所程度増設する。</p> <p>提案の理由 障がいの有無に関わらず遊べる公園は人気だが数が少ないため。</p> <p>提案の効果 ユニバーサルデザインの公園が身近に増えることで、障がいのある子、幼児、外国人など、誰もが安心して一緒に遊べる機会が増える。</p>		
<p>市長からの質問</p> <p>◎市長 ○子ども議員</p>	<p>◎西区の農試公園へは、皆さん行ったことはありますか？ ○はい、行ったことがあります。(他の子ども議員は首を横に振る)</p> <p>◎アンケートで「行きたいと思わない」「興味がない」子がいましたが、どうして興味がないんでしょうか？ ○年を重ねていくと、だんだん公園で遊ぶ機会が少なくなってくるからだと思います。</p> <p>◎実際に農試公園を利用した皆さんは、「こういうことがあって良かった」とか、「障がいのある子も一緒に遊んでいた」という気持ちはありましたか？ ○オムニスピナーを検索したときに、車いすの人が乗っている写真がありました。だから、障がいを持っている人でも、楽しめると思います。</p> <p>◎直接見たわけではないけど、ホームページで見たときに「車いすの方が使えるんだ」と、気づいたということですね。 ○はい。</p> <p>◎もし、このような公園がたくさんあって、障がいの有無にかかわらず、小さな子も大きな子も一緒に遊べるとしたら、楽しいでしょうし、色々な方たちのことを知ることができると思います。例えば、このような公園が増えることで、札幌はどのような街になるでしょうか。 ○はじめは、運動不足で病気になってしまう点を考え、少しでも体を動かしてもらいたいという想いで提案をしました。普段あまり外出しない人でも、外に出る機会が増えるという点で良いと思いました。</p> <p>◎家庭内でゲームをしたり、友達と対戦型のゲームをする方が、外で遊ぶ時間よりも楽しいという子どもが多いと思います。そのような世代の中でも、「このような公園なら魅力的で行きたい」と思えるでしょうか？ ○どれくらい耐えられるかといった勝負をすると、ゲーム感覚で遊べるのではないのでしょうか。 ○家に近ければ、楽しい遊具もあり、すぐに遊びに行けるのでいいと思います。</p>		



<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) 建設局 みどりの推進部 みどりの推進課</p>	<p>「増やそう！ユニバーサル遊具」グループの皆さんからの提案を受け、札幌市におけるユニバーサルな公園の整備について回答いたします。</p> <p>「それぞれの区に2〜3か所のユニバーサルな公園を作ってほしい」という皆さんの意見は、障がいがある子もない子も、住んでいる場所の近くで一緒に遊べるようにしたいという、優しく、具体的な目標を持った大切な提案として受け止めています。</p> <p>ユニバーサルな公園をどこに作るかを考える際、札幌市では「より多くの方が安心して来園できること」を大切にしています。ユニバーサルな遊具を必要としている方々の中には、バスや地下鉄などの公共交通機関での移動が難しい場合もあります。そのため、ご家族と車でスムーズに来られるよう、広い駐車場を確保できる大きな公園を、優先的な検討候補としています。</p> <p>そこで私たちは、各区にある大きな公園を対象に、整備の検討を進めていくことにしました。現在は南区の藻南公園において、皆さんが紹介してくれたような誰もが楽しめる遊具の導入に向けた準備を進めています。</p>
<p>札幌市の考え方</p> <p>(担当) まちづくり政策局 ユニバーサル推進室</p>	<p>みなさんが提案してくれた「障がいのある子もない子も、一緒に遊べる」という考えは、札幌市が目指している「共生社会」にとって、とても大切なことです。</p> <p>札幌市では、公園などの「建物や設備（ハード）」をつくるだけでなく、それを使う人たちの「お互いを思いやり、手助けし合う心（心のバリアフリー）」を育てることも大事にしています。</p> <p>みなさんが気づいてくれたような「誰もが使いやすいものになりたい」という優しい気持ちが、もっとたくさんの人に広がるように、いろいろな部署で連携しながら取り組んでいきます。</p> <p>(補足情報) ユニバーサル（共生）の推進 https://www.city.sapporo.jp/kikaku/universal/index.html</p>

令和7年度札幌市子ども議会 各グループ意見概要

グループ⑤	環境	子ども議員	5名 (小4:1名、小5:1名、小6:2名、中1:1名)
意見概要	<p>提案 さっぽろ雪まつりなどのイベント会場で、「レジ袋」と「パンフレット」の配布によるごみ持ち帰りマナーの啓発。</p> <p>提案の理由 ごみのポイ捨てにより嫌な思いをすることや、カラスを呼び寄せるといった現状に対し、罰金による強制ではなく一人ひとりのモラル向上によって解決したいため。</p> <p>提案の効果 国内外で知名度の高いイベントを活用することで、市民だけでなく観光客や外国人の環境意識も変えることができ、札幌から地球環境の保全に貢献できる。</p>		
市長からのコメント ◎市長 ○子ども議員	<p>◎アンケートでは、身近にごみが多いと感じている人が多数でしたが、例えば、自宅周辺の住宅地なのか、街中のように多くの人が集まる場所なのか、どのような場所でそう感じたという意見が多かったでしょうか？ ○自分の家の近くでも、街中にもごみがあります。</p> <p>◎特定の場所というよりも、色々な場所ということですね。例えば、観光客、外国の方は、ごみ箱がないと困ってしまいます。ごみ袋を受け取り、そこに自分のごみを入れたとして、一体どこに持っていけばいいのかと尋ねられた場合、どうしますか？ ○日帰りの場合は、トランクなどに入れて持ち帰っていただく必要があります。宿泊を伴う場合は、宿泊先のホテルのごみ箱に捨てるか、もし家族の家に泊まるのであれば、その家庭で捨ててもらおうことを考えています。</p> <p>◎ごみ箱を設置すると、火災のリスクなど、様々な難しさがあるという市の職員からの説明を聞いた際、皆さんはどのように感じましたか？ ○最初はごみ箱を設置したらいいと思っていたけれど、火がついたりするのはやっぱり危ないかなと思って納得しました。</p> <p>◎カラスの被害は、特に住宅地では、ごみステーションからカラスがごみを引っ張り出して散乱させることがあり、ごみ箱やごみステーションの工夫が必要となります。一方で、普通の道路でもカラスが気になる人はいるのでしょうか？そのような方は多いですか？ ○小さい頃、公園を友達と自転車で走っていて、頭が痛いなどと思って後ろを見ると、カラスがごみを落としてきて、それで嫌だなと思ったことはあります。</p>		



札幌市の考え方 (担当) 環境局 環境都市推進部 環境政策課	<p>現在、雪まつりなどの市内の大きなイベントでは、会場にポイ捨て禁止の広告看板を設置しています。また、イベント期間中には地下鉄車内に広告を掲示したり、JRタワーのビジョンを利用して啓発映像を放映したりして、来場者をはじめとした多くの市民や観光客に向けて、ポイ捨てをしないようマナー啓発を行っています。</p> <p>さらに、お客さんがごみをごみ箱まで持っていきことができるようになるために、ごみ箱の設置やお店でのごみ回収について協力してくれているイベント実施団体もあります。</p> <p>イベント以外の場面でも、ポケットティッシュ、ステッカー、旗など、いろいろな種類の啓発品を活用して、マナー啓発を行っています。</p> <p>皆さんの提案にあるようなパンフレットやレジ袋の配布は、それ自身がごみとならないよう、配布の仕方には工夫が必要ですが、意見にあるとおり、雪まつりのように人が多く集まり、また多くの人に関心を持ってもらえるような場所や時期を狙い、実際に手に取ったり見たりしてもらえるような方法を工夫して、今後も正しいマナーについて周知啓発していきます。</p>
--	---

令和7年度 札幌市子ども議会

令和7年9月～令和8年1月

札幌市子ども未来局子ども育成部子どもの権利推進課

電話 011-211-2942 FAX 011-211-2971

E メール kodomo.kenri@city.sapporo.jp



撮影協力

